

地域の宝を見つけよう

4人の実感とともに語られる三地区の魅力、地元目線で選んだ場所とともにご紹介。



森有史 (宮の森まちづくりセンター所長)

加藤修 (宮の森まちづくりセンター所長)

平川敦子 (宮の森まちづくりセンター所長)

城戸崎泰宏 (宮の森まちづくりセンター所長)

今年6月に、まちのレアスポットを巡るランニングイベント『札幌レアスポットロゲイン(※)』を開催し、話題を呼んだ平川敦子さんと、地域への入口的役割を担うまちセン所長が意見交換。各地区の魅力から始まったお話は、地域の物語を多くの人と共有できそうな、三地区フォトロゲイン計画に発展し…

平川: 私は宮の森地区に住んでいるのですが、この地区は安心感がまずありますね。大倉山や三角山を眺めることができることも魅力です。

加藤: パトロールや清掃活動など、自分たちのまちを住みやすくしようという地域の方々の努力が、安心感につながっているのだと思います。あと宮の森地区と言えば、月一回まちセンで開催されている押し花教室も要チェックです。65歳以上のお年寄りの方々が、毎回70人くらい参加する人気教室で、僕も一緒に押し花を作っています。

森: 押し花教室は僕も参加してみたい。南円山地区は、旭丘高校の生徒さんの地域での活動が特徴的。中央区道路アダプト制度による清掃活動をしたり、ボランティア部の子どもたちが子育てサロンなどに来てくれたり。今年は連合町内会の運動会に、チアリーディング部も来てくれるんです。

城戸崎: 円山地区は、洗練されたイメージと活気のあるイメージを併せ持っているところが魅力。古くから住んでいて交通安全、防犯、青少年育成など地道に活動している人や、子育て世代など比較的新しくお住まいになった人、住んでいるわけじゃないけど円山地区が好きで関わっている人など、いろいろな人が集まるところが面白いと思います。サークル活動でいうと、円山会館や円山北町会館などで色々な活動が活発に行われています。

まだまだ眠っている地域の宝

加藤: 人を通じてでしか得られない、情報や歴史ってありますよね。坂井さん(P16)が作った荒井山の年表は、ご自身が今まで体験したことをまとめたもの。だから、他の資料などでは得られない情報も載っている。これってすごいことだと思います。

森: 今回の『まちのモト』でも、テーマに合わせて地域の人を探るのが楽しかった。ページ数が限られているから全ては無理だけど、掘り下げれば掘り下げるほど色々な方を発見して。きっと、まだまだ眠っている地域の宝が、たくさんあると思います。

城戸崎: 今回は紹介できなかったけど、海産物を扱うお店で老舗もあって、「円山地区を紹介するとしたら」という目線でまちを歩いてみると、人や店など意外な発見があって、それが新鮮でした。

平川: 自分の場合、一時期札幌を離れていた間に街並も変わっていて、3年前に戻って住み始めたときは、知らない街に来たような印象を受けました。そこから自分でまちの情報を集めて、今年はフォトロゲインを開催するためチェックポイント候補地へ足を運んだりしているうちに、まちへの愛着は格段に変わりました。場所の背景にあるものを知って、実際に足を運んでみることで、見えるものが変わるといいます。

加藤: 地域のイベントとしても、フォトロゲインはいいですね。チェックポイントを各地区の人に考えてもらって、自分の地区ではないところを回ったら、いろいろ発見があって面白そう。

城戸崎: そうやってチェックポイントを作っていくところから、楽しんでもらえるといいですね。

旭山記念公園 >>>

牧場や農地、そして札幌温泉へと変貌しつつ、1967年に札幌市が創建100周年を迎えたことを記念し造られた旭山記念公園。眺めの素晴らしさは札幌の中でも指折りだが、1988年にスタートした「さっぽろ旭山音楽祭」も、夏を彩る一大イベントとして人気が高い。ファンファーレに続く、さっぽろ旭山音楽祭合唱団による『わが街・さっぽろ・旭山』の誇らしい歌声は感動的。今年もたくさんの観客が、合唱団とトップアーティストによる美しい歌声と夜景、遠くに打ち上がる花火を楽しんだ。



<<< 界川神社

南円山地域の氏神として信仰を集めている界川神社は、今年で祭祀108年。地域の方にお話を聞くと、鎮座地の移転から神殿の改築、御神輿の新調などを、町内有志の方々が手がけてきたそう。毎年9月の第1土曜日、日曜日は例大祭。土曜の宵宮祭では境内が出店で賑わい、子ども相撲も開催。日曜の本祭の御神輿渡御では、約220人の担ぎ手が参加し、連合町内会内を一日がかりで練り歩く。毎年遠方から、仕事の休みをとって笛を吹きに来てくれる方もいるのだとか。「氏神さまのおかげで、今日も無事に暮らせるのですから」という地域の方のお言葉に、心の拠り所としての神社の姿を見た。

愛青果店 >>>

愛青果店は、近隣の方々から「買い物をするなら、このお店」と圧倒的な支持を得る八百屋さん。1953年の7条マーケットの開設に遡り、1968年開場の札幌市南円山公設小売市場、1984年開店のユアーズなんまると、脈々と続いてきた地域の台所としての役割を絶やさぬようにと、ユアーズなんまる閉店後、そのすぐ近くに移転オープン。「なんまる」という会社名が、この地域への思い入れを感じさせる。代表の庄司善人さんと地域の方々のお付き合いは、公設小売市場時代から。顔なじみのお客さんの多さに、地域に根ざした店の大切さを実感。



平川:実際にフォトロゲインに参加してみると、身体を動かす気持ち良さ、決められた時間の中でいかに得点を得るか、そのルートを考える楽しさがあります。単純にチェックポイントの一覧表を見ながらまちを歩くだけでも、今まで知らなかった場所に足を運ぶので、新しい発見がある。マラソンとピクニックの要素が合わさった「マラニック」もいいですよ。

こちらは時間制限がないので、おしゃべりしたりエイドで休んだりしながらコースをゆっくり回ることができます。子どもからお年寄りまで参加できるので、地域おこしにも活用されているんです。

森:マラニックだと、親子やご夫婦でも参加できていいかも。チェックポイントの一覧表に載せるコメントも、地元の人ならではのエピソードが載るといいなあ。界川神社(P14)なんて、探す楽しさもあると思う。この地域を歩きたいと思っている人は多いと思うから、そういう人たちにもどんどん参加してもらって。僕は食べ物には弱いから、食をテーマにしたチェックポイントを巡るのなら、ぜひ参加したいな。

※札幌アスリートロゲイン:「ロゲイン」とは、オーストラリア発祥の大規模スコアオリエンテーリングのようなもの。主にオーストラリア、アメリカ、カナダなどで盛んに行われている。地図を片手に指定された得点場所(チェックポイント)をまわり、制限時間内にどれだけたくさん点数を重ねられるかを競う競技。札幌アスリートロゲインでは、市内の36地点をチェックポイントとし、公共交通機関の利用も可とするなど、ロゲインのルールをアレンジしてフォトロゲインとして実施された。ヒヤックム HIRAKAWA Atsukoランニング作戦室 <http://hyaccome.michikusa.jp/index.html>

南円山まちづくりセンター 札幌市中央区南9条西21丁目1-1 TEL 011-561-2472 8:45~17:15
円山まちづくりセンター 札幌市中央区北1条西23丁目1-18 TEL 011-611-3367 8:45~17:15

宮の森まちづくりセンター 札幌市中央区宮の森2条11丁目1-3 TEL 011-644-8760 8:45~17:15 <http://miyanomorimachisen.blog111.fc2.com/>

まちセンINFO

地域のまちづくり活動の拠点となるのが「まちづくりセンター」。地域の方々の活動がうまく進むよう支援したり、必要な情報を収集・提供したりしている。その他にも、地域で活動する団体をゆるやかに結びつけた「まちづくり協議会」の設置・運営のサポートや、身近な所では住民票などの諸証明の取り次ぎサービスも。詳しくはホームページを見てみよう。

<http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/>

円山商店街

大通・北2条間の主に西23、24丁目沿いは、老舗から若者による個性派ショップまで、バラエティ豊かな店舗が軒を連ねる円山商店街。地元の人に愛される魅力を探るべく、円山商店街振興会会長の小野盛秀さんと一緒に散歩。いつものお買い物コースとお食事コースを、少しだけ教えて頂いた。お店の人や買い物に来ていた他のお客さんとの会話は、昔も今も変わらない商店街の風景。ちなみに本日お買い上げしていた大量の人参とりんごは、毎朝手作りにしているフレッシュジュース用とのこと。



フーズバラエティすぎはら

先々代の頃から北海道神宮へ毎日野菜を奉納しているという、創業68年の老舗八百屋「フーズバラエティすぎはら」。「売り手である前に、まず消費者として全ての商品に向かい合っています」と語るのは、三代目店長の杉原俊明さん。仕入れのときには、お店のスタッフ総出で試食。実際に食べてみることでわかる良さを、ダイレクトに反映させた手書きポップは、眺めているだけで買い物の楽しさ倍増。お客さんから勧められたことが仕入れのきっかけとなった食品もあり、売り手と買い手の柔軟な関係が印象的なお店だ。ちなみに「いつも食べてばかり」という杉原さん、夏はトレッキング、冬はスキーでカロリーを消費しているそう。



旧荒井山スキー場

1930年に、荒井山スキー場の荒井山記念ジャンプを中心に、宮様スキー大会が開催されて以来、スキーが盛んに行われてきた宮の森地区。「1932年にここで開催された、旧制全道中学校スキー大会に出場したよ」と語るのは、道内スキーの第一人者である荒井山町内会元会長の坂井敏夫さん。1950年にスキー指導員の資格を取得し、1954年にはアルペンの第一人者であるフランス人アンリ・オーレーから回転の指導を受けたそう。坂井さんが設立に尽力した荒井山のスキーリフトや夜間照明、そして1960年に開校した荒井山スキー学校などは、全て道内初。スキー場は、利用客の減少により惜しくも平成12年に休止されたが、跡地は荒井山緑地として地域の皆さんに親しまれている。なお、ジャンプ台は健在で、現在も少年・少女ジャンパーの登竜門として知られている。



ミニまるいちば&丸一神商店

明治時代初期の円山朝市からその歴史が始まった「まるやまいちば」近くに、熊谷青果店、よしだ商店、高橋精肉店がミニまるいちばを移転オープン。お店の人とお客さんの小気味良いやり取りは、何とも言えない温かみがあり、会話が買い物を彩ることを感じさせてくれる。ところかわり、1949年のオープン以来、中央卸売市場ができるまで野菜の提供を一手に引き受けていた円山北町朝市。そこから移転してきた丸一神商店では、神ひふみさんの手作りするうめ漬が人気。撮影の終わりにお土産に持たせてくれたソルダムは、とても甘くて瑞々しく、こういう人情味も大型スーパーでは味わえない魅力と再認識。



宮の森緑地・荒井山展望台・大倉山ジャンプ競技場

山とともにある宮の森地区は、ウォーキングにも最適。ということで、地域のウォーキングイベントに潜入!最初に訪れたのは宮の森緑地。「この本郷新の『太陽の母子』は、三角山小学校の子どもたちがよく写生に来ていますよ」とは、健康づくりの企画をしている後條さん、金子さん、須藤さん(写真左から)。休憩した荒井山展望台には、「タッチの木」と呼ばれる木があり、大倉山小学校の子どもたちが休み時間に坂を駆け上ってはタッチしていくそう。大倉山ジャンプ競技場では、スキージャンプ練習の見学もお勧め。ホームページでは、大倉山と宮の森ジャンプ競技場での練習日を公開しているので、チェックしてみよう。